

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## ～ 情報化、グローバル化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
3. 豊かな心や社会人基礎力を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する
  - ア 生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進める
  - イ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させる
  - ウ 単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく
  - エ 生徒が学習において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する
  - オ ICT 等を活用して学習活動等を充実する
 

学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を平成 30 年度の 57.9%を、2021 年度 60%となることを目標とする

授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答平成 30 年度 80.5%、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感している」についての肯定的回答平成 30 年度 82.5%を 2021 年度も 80%台を維持することを目標とする

英語検定準 2 級、GTEC690 相当以上の合格者合計、平成 30 年度 150 名を 2021 年度 180 名を目標とする
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む
- (3) 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する
 

大学入学共通テスト（新テスト）に向けて記述式問題への対応、英語 4 技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る

国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役の合格者数平成 30 年度 166 名を、2021 年度には 200 名を目標とする

## 2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める
  - ア 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間や HR を活用し、生徒の生きる力の醸成を図る
  - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める
- (2) 豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、社会の発展に努め、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める
  - ア 普通科、国際教養科の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める
  - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む
  - ウ 生徒が自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき行動しうる発達段階にあることから、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる社会性を養う
  - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む
  - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する
  - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う
 

頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する。遅刻について平成 30 年度 3067 件を、2021 年度 1500 件程度に減することを目標とする

部活動加入率（3 学年平均）、平成 30 年度 66.5%を 2021 年度にも維持することを目標とする
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする

## 3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチーム学校として、目標を持って邁進できる組織を構築する
  - ア 将来構想委員会を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCA による学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める
  - イ 大阪府立高等学校再編整備計画（2019 年度 から 2023 年度）に基づき、これまでの取組みを発展・深化するように検討する
  - ウ 運営会議、職員会議などの充実に図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する
  - ア ICT の有効活用を図り、教職員間メールや掲示板を活用し、校務分担などの事務的作業の簡略化、校務の効率化に繋げる。また、授業準備の共有化を図るなど授業改善にも努める。さらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす
  - イ 学校休業日や部活動休業日の設定などに取組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実に努める
  - ア ホームページやパンフレット等を充実させて情報発信することにより広く学校を理解してもらえるように努める
  - イ 招致される進学説明会等の参加への改善を図るとともに、教員による中学校訪問、学校主催のオープンスクールの見直しを行う
 

高校入試の応募状況等から招致される進学説明会への参加や本校教員の中学訪問を検討する。オープンスクールは年 3 回開催し、中学生、保護者の申込者数を併せて、毎回定員を超えることを目標とする

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 12 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年％（昨年％） 確かな学力の育成</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はわかりやすい。59.0％（57.9％）</li> <li>・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。64.8％（66.6％）</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは授業が分かりやすく興味深いと言っている。40.2％（39.1％）</li> </ul> <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の精選・工夫を行っている。79.6％（87.8％）</li> <li>・学習指導の方法や内容について工夫している。81.5％（81.6％）</li> </ul> <p>【分析】</p> <p>生徒・保護者の回答で「授業がわかりやすい」の割合が低いことに対して、学校として真摯に受け止め、4年間力を入れて取り組んできた。その結果、生徒の回答においては4年前と比べ約11ポイント上昇させることができた。別途実施の授業アンケートでは80％以上の生徒より、授業に興味関心を持ち、知識や技能が身についたと感じているという肯定的な評価があった</p> <p>また、約80％の教員が「教材の精選・工夫を行っている」や「学習指導の方法や内容について工夫している」と回答しているが、「教材の精選・工夫を行っている」との回答が昨年より減少していることは課題としたい</p> <p>保護者の回答で「子どもは授業がわかりやすいと言っている」が40％弱であることは、子どもが苦手な科目に関して興味を持つところまでの指導が、未だ十分ではないと捉えて一層の授業改善の研究を進めたい</p> <p>学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に行くのが楽しい 77.9％（79.8％）</li> <li>・将来の進路や生き方について考える機会がある 84.5％（84.1％）</li> <li>・先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる 59.4％（60.1％）</li> <li>・担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる 63.5％（61.0％）</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 80.5％（79.7％）</li> <li>・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている 68.4％（66.2％）</li> <li>・学校の生徒指導の方針に共感できる 65.3％（68.4％）</li> </ul> <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は生徒の意見をよく聞いている 74.1％（77.6％）</li> <li>・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる 64.8％（71.4％）</li> <li>・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる 70.4％（73.5％）</li> </ul> <p>【分析】</p> <p>「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」は生徒、保護者ともに80％近い高い割合を維持できた。「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答えた生徒も約85％と高い割合を維持できている。進路指導部を中心に多様な説明会・進路行事を行っている結果だといえる。保護者の「将来の進路や生き方に対し適切な指導を行っている」「学校の生徒指導の方針に共感できる」がいずれも65％以上で維持できた</p> <p>生徒相談に関する「先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」は約6割で少し低いように思われるが、実際は無回答が23.6％もあり、他の項目にはこのような傾向は見られない。おそらく実際にいじめ等困っていることがないため回答がわからない、という生徒が多いと考えられる。年に3回のいじめアンケートなどのいじめを見逃さない取り組みを継続していく</p> <p>学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室等は授業や生活がしやすいように整備されている 59.0％（59.6％）</li> <li>・学校からの諸連絡を保護者に漏らさず伝えている 66.8％（69.3％）</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる 40.9％（42.4％）</li> <li>・子どもは学校からの諸連絡を漏らさず伝えている 58.0％（60.5％）</li> <li>・学校が家庭連絡を積極的におこなっている 66.3％（57.3％）</li> </ul> <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営に教職員の意見が反映されている 61.1％（65.4％）</li> <li>・分掌や学年間の連携が円滑に行われている 40.7％（40.8％）</li> <li>・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている 66.7％（67.3％）</li> </ul> <p>【分析】</p> <p>施設設備の老朽化とともに教室が狭い、トイレ環境が悪いなど生徒、保護者ともに改善の要望が強い。学校からの情報発信については、ホームページでの学校配布プリントの題名掲載、またライデンメールの登録推進、学年のメールマガジンなどで、保護者からの肯定的回答が9ポイント増加した</p> <p>教員の「分掌や学年間の連携が円滑に行われている」については、本年度はほとんど変化がなかった。教科、学年、分掌等の組織体制のさらなる情報共有が、課題である</p>	<p>□第1回（7月1日） 「旭高校の魅力づくりに向けて」(協議)</p> <p>(1)校長あいさつ (2)委員自己紹介、事務局員自己紹介 (3)今年度の学校運営目標と現状報告 (4)各分掌・各学年の取組み 進路指導部 生活指導部 保健部 図書教養部 情報部</p> <p>(5)協議（主な提言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中旬に発生した吹田市の凶悪事件について、学校がいち早く警察署と相談し翌日の対応を夜には保護者緊急メールで示してもらったので安心できた</li> <li>・進学について、一般入試まで粘り強く最後まで取り組むことについて学校としてポイントをおいて指導していることは、生徒の学力を最大限に伸ばすためにも大事にしてもらいたい</li> <li>・授業中集中して授業内容を吸収しようとする、実際の入試の時間帯を意識し生活リズムを整えること等も含め、生徒に勉強時間を確保させ、家庭学習を促すにはどのようにすればよいか取り組んでほしい。</li> <li>・登下校時の自転車による交通事故の多発の現状を受け、交通安全や事故の対応（加害・被害とも）を指導しておく必要がある</li> </ul> <p>□第2回（9月30日） 「旭高校の魅力づくりに向けて」(協議)</p> <p>(0)授業見学、校内巡回 (1)校長あいさつ (2)委員あいさつ (3)広報活動報告（首席） (4)各分掌より（誌上報告） 進路指導部 生活指導部 図書教養部</p> <p>(5)協議（主な提言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い先生が増え、はつらつと生徒を指導している姿が印象に残った。生徒も楽しそうに授業を受けていた。ICT機器をうまく使っていて参考になった。芸術科の実習教室を始めて見学して、施設や設備がそれなりに充実していることが分かった</li> <li>・指定校推薦の現状について、2年ほど前から大幅に希望者が増えている。入学定員厳格化の影響を受け先輩が入試に苦戦する姿を見たり聞いたりする中でこうした傾向が進んでいるとのことだが、引き続き傾向を注視して、的確な指導を望みたい</li> <li>・市販の大学別入試過去問題集の貸出期間が短いという不満があるが、予算の関係上複数冊を揃えられないことは理解した</li> </ul> <p>□第3回（1月27日） 「学校経営計画および学校評価について」</p> <p>(1)校長あいさつ (2)委員あいさつ (3)学校経営計画および学校評価（校長） (4)学校教育自己診断について（教頭） (5)広報活動について（首席） (6)令和2年度教科書選定について（教務） (7)令和2年度入学生教育課程について（教務） (8)協議（主な提言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断の設問「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「学校行事は子どもにとり有意義」、授業アンケートの設問「授業の進度や難易度は自分にとって適切」「毎時間授業の目標や大切なポイントを説明してくれる」等の肯定的回答の割合が昨年同様80％以上と高いことは評価できる</li> <li>・学校からの家庭連絡については、新たなシステム（ライデンスクールメール）の導入で保護者としてはありがたく思っている。学校の動きなどが10日に1回程度のペースで発信されており非常に良い</li> <li>・半分近い生徒が、家庭学習時間は休日平日かかわらず30分未満と回答しているが、進路の目標がまだまだ漠然としているところが要因の一つとも考えられ課題である。また、学校での放課後の自習等を含むかの指摘をいただき、次年度は設問の表現を考える</li> <li>・以上の協議を経て「平成31年度学校経営計画及び学校評価（案）」、「令和2年度学校経営計画及び学校評価（案）」は承認された</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成【授業力】</p>	<p>(1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する</p>	<p>(1) ア 「主体的な学び」 「キャリア・パスポート」などの活用を検討する 「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している話を聞いたりすることで自らの考えを広めるとともに、生徒自らが考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする 「深い学び」 課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む イ 「見方・考え方」 指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を研究する ウ アクティブラーニングを取り入れ汎用的能力の育成を図る アクティブ・ラーニングでは教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効な方法であるので取り入れる エ ICT等を活用して学習活動等を充実する 総合HR研修委員会を中心に、研修を実施し、授業やクラス活動においても活用率を高める 授業、その他で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う オ 学校教育自己診断等の結果を踏まえ、年間実践の振り返りと課題探索を行う</p>	<p>□Asahi Cardの活用 □社会人講話や模擬授業を実施する □総合的な学習・探究の時間の活用計画を立てる □補習・講習など各種講習を充実させ、学習の機会を増やす  □特別授業 生徒の興味・関心を高め、視野を広げることができるよう有意義な特別授業を実施する  進路指導に関する行事 進路に関する行事を充実させ、選択肢を示しながら生徒が希望する進路実現に繋げていく □学力診断テスト、模擬試験等を学年毎に2回以上実施 □進路に関する説明会及び講演会を4回以上実施 □大学見学会、卒業生と懇談、大学による模擬授業等を実施  国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・関西/京都外大)の現役の合格者数平成30年度166名を180名とする  □ICT等を教員が必要に応じて使えるようになる  学校教育自己診断の結果 □「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成30年度の57.9%を59%以上に する  授業アンケートの結果 □「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成30年80.5%を維持する □「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成30年度82.5%を維持する</p>	<p>学びへの取組み( ) □Asahi Card活用中 □社会人講話や模擬授業を実施。 □総合的な学習・探究の時間の計画立案とともに実施 □補習・講習などの学習の機会を設定したがもっと積極的な参加が必要 □特別授業、即興型英語ディベートや外国文化との交流。英語レシテーションやスピーチの授業 大学生による食育の授業など  進路指導に関する行事( ) □学力診断テスト、模擬試験等を予定通り実施 □進路に関する説明会及び講演会を4回以上実施 □大学見学会、卒業生と懇談、大学による模擬授業等を実施  進路結果( ) □国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・関西/京都外大)の現役の合格者数令和元年度136名  ICTの活用( ) □ICT等を教員が必要に応じて使っている 有効な活用の研究は継続して必要  学校教育自己診断、授業アンケートの結果( ) □「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、令和元年度は59.0% □「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、令和元年80.5% □「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、令和元年度83.7%</p>
<p>2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】</p>	<p>(1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む</p>	<p>(1) ア 集団活動の機会と環境を提供し、積極的に取り組むことで他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。「協調友愛(校訓)」 体育祭、文化祭等の学校行事の充実 イ 国際交流、海外語学研修や留学生の受け入れ等に取り組む、国際感覚を醸成するとともに日本文化への理解を深める 国際理解教育の実践、国際交流の充実に取り組み、英語力の向上を図る 語学研修や海外修学旅行にあたり、日本文化について調べる ウ 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。「自主自律(校訓)」 エ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う 指導方針の明確化を図り、全教職員一致して実践する 頭髪や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う</p>	<p>□組織的対応  □姉妹校からの生徒の受入れ □留学生の受入れ  □語学系の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等への参加を推奨する  □英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用について本校にあうものを選定する  □上記検定において英語検定準2級、GTEC690相当以上の合格者合計、平成30年度150名を160名にする  □海外語学研修の実施  □修学旅行の事前事後指導  □学期初めに生活指導方針の確認を行う □特別指導期間の設定 □平成30年度3067件の遅刻を、2200件程度に減する</p>	<p>組織的対応( ) □各役割を複数名で担当することをめざしたが年度途中の教員異動等によりひとりでの対応となる場面があった 国際交流( ) □姉妹校からの生徒の受入れ 10月にタイの姉妹校から生徒10名と先生2名を受け入れ □留学生の受入れ 常に二人以上の留学生がおり、生徒と一緒に学習活動、行事、部活動に参加 語学系取組み( ) □語学の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等へ参加し、レシテーションでは3位に入賞。第2外国語では6言語によるパフォーマンスを披露 □英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の選定は文部科学省の方針変更を受け、継続従来からの英語検定は実施 □英語検定準2級、GTEC690相当以上の合格者合計、令和元年度212名 海外における研修等( ) □オーストラリア語学研修及びアイルランド語学研修を実施 □修学旅行の事前事後指導実施 □レシテーションコンテスト、スピーチコンテスト、インターナショナルフェスティバルの運営への積極的参加 □英語の検定への参加者の増 生徒指導関係( ) □学期初めの生活指導方針の確認に不十分な点があった □遅刻防止、服装、交通安全の特別指導期間を設定 □令和元年度遅刻2857件</p>

<p>2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】</p>	<p>(2) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにするとともに安全で安心な学校にする</p>	<p>(2)          ア 心身の健康を図る          生徒の健康に留意する          学校生活を送り辛く感じている生徒への対応          学校休業日を設定する          部活動に係る活動方針に沿った活動、部活動休養日の実行          イ 非常変災の対応について          場面設定をした避難訓練を実施する          防災及び災害時に必要な物品を整備する          非常変災時及びその前後の情報発信について検討する          ウ 生徒が IT に触れる機会が増大していることを踏まえ、IT の利活用により、そのメリットを享受して豊かに生活を送ることができるよう、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を含め、IT リテラシーの向上を図る。</p>	<p>□保健室の環境整備          □生徒支援(委員会)の充実          □生徒理解研修の実施          □生徒情報の共有          □学校休業日を設定する          □部活動に係る活動方針を策定してHP等で公表する          □部毎に年間計画、月計画を立てて、生徒、保護者と共有する          □部活動加入率(3学年平均)平成30年度66.5%を維持する          □想定を変え、課題をもって避難訓練を行う          □備蓄品で本校に足りないものを計画的に揃える          □非常変災時の情報発信に何が適当か検討する          □情報モラルに関する講習会を実施する          □情報科の授業を中心に他の授業でもITリテラシーの向上を図る</p>	<p>安心安全( )          □保健室の環境整備:エバキュレーションチェアへの導入          □生徒支援(委員会)の充実:組織の改編          □生徒理解研修の実施          □生徒情報の共有:定期的実施          □学校休業日を設定した部活動( )          □部活動に係る活動方針を策定してHP等で公表          □部毎に年間計画、月計画を立てた。生徒、保護者と共有が十分ではなかった点があった          □部活動加入率(3学年平均)令和元年度69.7%非常変災の対応( )          □当日が雨で、晴れバージョンは次年度へまわし、クラスで登下校時の避難等について各自で調べた          □備蓄品で本校に足りないものを計画的に揃えるとともに期限が迫った備蓄米を有効活用した          □非常変災時の情報発信にライデンスクール(緊急メール)を導入した          ITリテラシーの向上( )          □情報モラルに関する講習会を新入生向けと教員向けに実施          □行事の際に著作権等の保護や人権について注意</p>
<p>3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】</p>	<p>(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチーム学校として、目標を持って邁進できる組織を構築する</p> <p>(2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす</p> <p>(3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実</p>	<p>(1)          ア 将来構想委員会を発足し、短期及び中期の課題解決をめざす          学校全体の課題を整理し、校内の各委員会に指示する          国際関係学科としての発展、深化を図る          新学習指導要領に対応する          イ 組織的な対応          運営会議、職員会議などを議論及び意見集約の場とする          総合HR研修委員会の活動を拡充して総合的な探究の時間の方針を示す。また将来構想委員会と協力して教員研修を企画する          学年の運営は、担任と副担任をあわせた学年団で行う          学級の運営は、担任と副担任が協力して行う          これまでの台湾修学旅行を検証し、内容を拡充する</p> <p>(2)          ア ICTの活用          教職員間メールや掲示板を活用する          事務的作業の簡略化を図る          共有フォルダの利用          イ これまでの制度等の見直し          (再掲)          学校休業日を設定する          部活動に係る活動方針の策定          部活動休養日の実行</p> <p>(3)          ア ホームページやパンフレットを充実する          ホームページの更新          パンフレットの内容の検討          イ オープンスクールの実施及び進学説明会への参加          府主催の進学フェアへの対応          オープンスクールの実施形態を検討する          他団体主催の進学説明会への対応          ウ 地域連携          地域コミュニティ等や近隣小中学校との連携を図る</p>	<p>□将来構想委員会等の活動を把握する          □校内の他の委員会との連携</p> <p>□総合的な探究の時間の舵取り          □教員研修の企画 年3回</p> <p>□担任、副担任の業務の見直し          □修学旅行における学校交流、B&amp;Sをこれまでより発展させる</p> <p>□連絡事項はメール等で行うことで、会議の時間短縮と使用ペーパーの削減を図る          □業務のscrap and buildを検討する          □分掌や教科等でデータを共有し、作業の軽減を図る。          (再掲)          □学校休業日を設定する          □部活動に係る活動方針を策定してHP等で公表する          □部毎に年間計画、月計画を立てて、生徒、保護者と共有する。</p> <p>□進学フェアではプレゼン形式であるが、学校の理解度をあげる          □HPの更なる充実を図り、更新を月平均3回以上とする。</p> <p>□オープンスクールではクラブ員以外の生徒への影響を減らす          □開催方法の検討          ・進学説明会等は土、日、休日に行われることが多く、教職員の負担減を検討する</p> <p>□旭区役所、旭陽中学校、高殿小学校と連携する          □旭陽中学校は出前授業や高校訪問に対応          □高殿小学校は理科実験の対応や児童会活動への協力</p>	<p>課題解決に向けて( )          □将来構想委員会を定例で実施          □探究についてSHK委員会と、カリキュラムについて教育課程委員会と連携          □総合的な探究の時間の実施          □教員研修の実施年3回          ・情報リテラシー研修          ・生徒理解研修          ・進路指導研修</p> <p>組織的対応について( )          □担任、副担任の業務の見直しでは探究の時間を全体で考えることなどやや進んだ          □修学旅行では新たな学校との交流、B&amp;Sに大学見学を取り入れた          □会議の時間短縮と使用ペーパーの削減はまだ不十分          □業務のbuildが多く、scrapに至らない          □分掌や教科等でのデータ共有や課題共有が不十分          □学校休業日を設定          □部活動に係る活動方針を策定してHP等で公表          □部毎に年間計画、月計画を立てた。生徒、保護者と共有が十分ではなかった点があった</p> <p>学校の広報等( )          □進学フェアでは本校のブースは公立高校の中でも来場者が多く、満足されていた</p> <p>□HPの更新を月平均3回以上実施した</p> <p>□これまで土曜日の午前中授業、午後にオープンスクールを実施してきたが今年度は2、3回目を午前中開催にし、生徒は休みのままにしたこれは特に3年生の推薦入試への影響を考慮した</p> <p>□区PTAや民間主催の進学説明会へは積極的に昨年より多く参加した          □国際文化科の広報内容が未定なこと、中学校、高校双方の業務量を減らす観点から今年度は中学校訪問を中止した</p> <p>地域連携( )          □旭区役所とは地域、防災面で連携          □旭陽中学校の出前授業は時期の関係で今年度は実施できなかった          □高殿小学校は理科実験教室実施や児童会活動への協力</p>